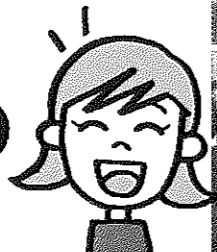


大盛況! フリースクールの オープンハウス



11月下旬、フリースクールでオープンハウスが行われました。今回の目的は、地域の方や、フリースクールに興味をもって来られている方に、実際にフリースクールに来ていただき、ここでどんな活動を行っているのか、居場所の空気を体感してもらおうというものでした。

自分たちでお客様に販売するメニューや値段を決め、ご近所にチラシ配りや、新聞やラジオでの広報も行い、準備万端で当日を迎えました。

当日は、近所の方がバザーに足を止めてくださったり、子どもたちの

作るパンケーキやパレアンアートは大盛況、保護者の皆さまが作ってくださった豚汁とおにぎりも、たくさんの方に喜んで頂きました。地域の方などの来場者約30名(スタッフなども合わせると50名以上)。バザーや軽食コーナーでの売り上げの利益は、およそ18000円。当日、民友新聞さんの取材なども入り、多くの方にフリースクールという地域の中にある居場所の存在を知ってもらえたのではないかと思います。

当日来ていただいた皆様、お手伝

いに来てくださった保護者の皆様、バザーの品を快く提供して下さった皆様、オープンハウスを応援して下さった全ての皆様、そして最後まで頑張ってくれた子どもたち、この場を借りて、お礼を言わせてください。本当に、ありがとうございました。

これからの活動予定

- 1月25日(土)「ビーンズ親の会」
13:30~15:30 フリースクール
- 2月1日(土)「サポステ家族の集い」
13:30~15:30 矢剣会館
- 2月22日(土)「ビーンズ親の会」
13:30~15:30 フリースクール

新人紹介

どうぞよろしく!

ビーンズの子ども広場でのボランティア経験を活かし、少しでも多くの子どものために笑顔に出来るように頑張ります!

うつくしまふくしま 子ども未来応援プロジェクト(県中)
大山 泰広 (山形県山形市)



利用者様に「この人に話を聞いてもらえて良かった。」と笑顔になってもらえるような相談員を目指します。

ふくしま若者サポートステーション
村上 有里香 (山形県山形市)



初めまして。生まれも育ちも福島市です。福島の親子が笑顔で元気に過ごせるよう第一杯頑張りたいと思います!

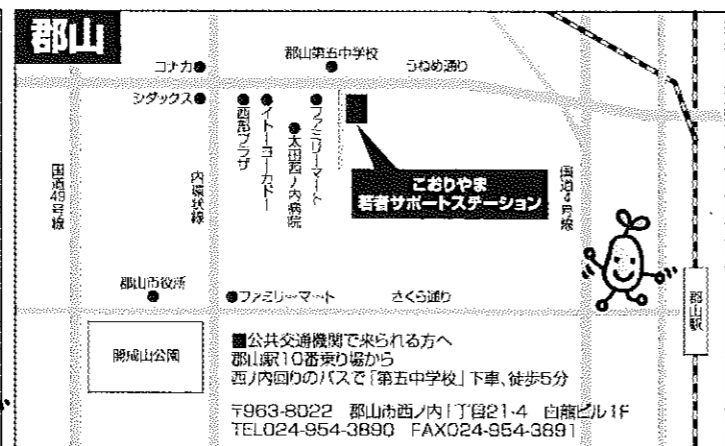
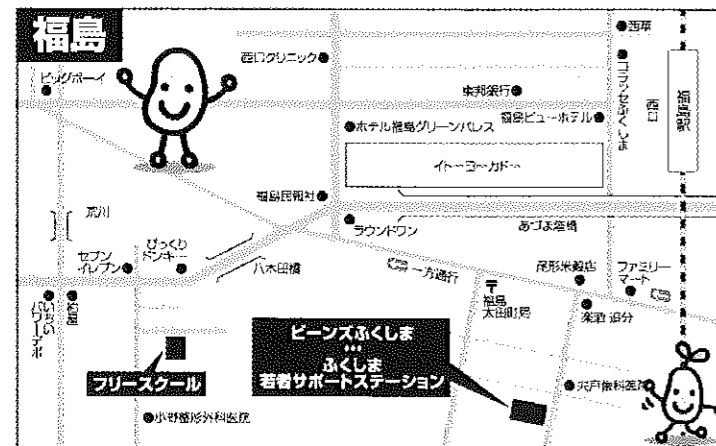
東日本大震災 中央子ども支援センター福島窓口
三浦 恵美里 (山形県山形市)



あけましておめでとうございます。ビーンズスタッフは年末28日(土)に仕事を終えると、各事業所を後に、『怒涛の年越し(個人的に勝手に命名しました)』に突入したのです。久しぶりの長期の休みをいただこうというの

もちろんですが、年明けに「ちゃんと仕事をする人」になって戻れるのか…いささか不安にもなっていたのであります。さて、年が明けて仕事始めは、たくさんいただいた年賀状をスタッフで読ませていた

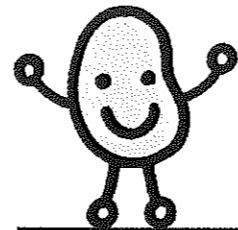
たくさんから始まりました。机に積まれた年賀状はこれまでビーンズがともに繋がった方々からいただいたものです。創立15年を迎え本当にありがたく思っています。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



●ビーンズふくしま <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>

●ふくしま若者サポートステーション <http://www.fukusapo.org>

ビーンズ通信



●発行日/2014年1月10日

Vol.61

●発行元
特定非営利活動法人
ビーンズふくしま
〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>
E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。



謹んで新春のお慶びを 申し上げます

新たな年を迎え、皆様それぞれに歩み出されていることと存じます。昨年は多くの皆様のご支援・ご協力をいただき、子ども若者支援の活動を進めていくことができましたこと、心から感謝申し上げます。本年もまた、どうぞよろしくお願ひいたします。

若月 ちよ

穏やかな元旦を迎えながら

今年は、風もなく青空も望めた穏やかな元旦からのスタートになりました。穏やかな外の景色を眺めながら、今年は何んな一年になるのだろう、そして、どんな一年にしていけるだろう…子ども若者に関わる多くの皆様と共に、どんなことができるか、どんなことができるか、どんなことができるかを一緒に考えていながら、福島の子どもの若者支援の形を創っていきたく…そんなことを思いました。

1999年に始まったビーンズふくしま、今年で15周年を迎えます。15年前、私はひとりの不登校の子どもを抱える親でした。学校に行けないでいる子どものため、学校以外に学べる場所が欲しい、人と関われる場所が欲しい、そんな思いでビーンズふくしまの立ち上げから参加してきました。不登校児を持つ親、地域の中に子どもの学びの場を創りたいと思っていた若者たち、子どもたち支援に想いを持つ市民の皆さんと共に、どんなフリースクール

があつたら子どもたちにとっていいのだろうかを、話し合いながら創っていった日々を思い出します。

今、ビーンズふくしまの各事業に取り組みながら、何らかの生きにくさを抱える子どもたち若者たちが自分らしく社会に参画していくためには、いくつかの段階が必要であると感じます。例えば、ひきこもりの状況から、一足飛びに仕事ができるようにはなり得ません。そこにはいくつかのステップが必要です。安心して、家から出ていくことができるようになるには、安心して関わってくれる社会の中の『誰か』が必要です。そして次は、複数の人と関わる『場』です。そこで、安心できる人たちとの関わりを経て、『社会』へ出ていくハードルが少し下がるのです。次のステップは、もう少し社会に近いところで、自分も誰かの役に立つという経験ができる場所…例えば、地域のボランティアへの参加体験、短期間のジョブトレーニングへの参加等

です。そういうステップを踏んでいく中で、少しずつ社会へ出ていけるかもしれないという『自信』を獲得し、もしくは『この自分でもなんとかなるかも…』という『自分への信頼』を感じていくことが必要なのです。そこであらためて、アルバイトや職業訓練へと進んでいけるのです。また、『中間的労働』と言われる少しお金をもらうことができる仕事を創ることも、若者支援のしくみには求められています。

そうしたしくみをそれぞれの地域に創っていくことが『若者が社会に参画する』ことになり、『若者が社会の担い手』となっていくことへとつながるのです。

『この子どもたち若者たちをどうしたらいいのだろうか』と悩んでいらつしやる地域の皆様と共に話をしながら、一緒に考え、若者支援のしくみを、ステップを地域の中に創っていきたく、それが、ビーンズふくしまの初夢です。

特集 寄付キャンペーンのご協力、誠にありがとうございました

ご寄付のお礼と報告

前号でお知らせした、11月27日～12月27日の1カ月間の寄付キャンペーンが終了しました。

結果、1,283,960円、209名の方からご寄付をいただきました。たくさんのご協力をいただき、本当にありがとうございました。

オンライン寄付も併せた寄付キャンペーンは初の試みで、準備を含めた2か月間は、ラジオ放送やインターネット広報、お手紙など、やれるだけ全てやってみる、チャレンジ期間でした。そしてたくさんの方に協力いただきました。今回のキャンペーンを担当した私自身としては、こんなにも多くの方々にご支援いただけたことに驚き、またご協力いただいた方々のお気持ちを想像すると、心に熱く響くものがあり、活動への励みをいただきました。

仮設住宅での子どもの居場所を

原発事故により避難をしている浪江町、富岡町の2013年の子どもアンケートでは「今の生活で困っていること」として、「友だちとはなれたこと」が一番多い結果となりました。そう答えた子どもたちは、いったいどのような心境にいらっしゃるのでしょうか。仮設住宅の集会所等で開催する「学習サポート」や「こども広場」に参加している子どもたちも、放課後に友だちと過ごすことを楽しみに来ています。「週2回だけじゃなくて、毎日やってほしい!」という子どももいます。同じ目線で話し合える友だち、仲間がいる、安心できる居場所を求めているのではないかと想像します。

復興公営住宅の計画も進んでおり、仮設住宅からまた次の移動が控えています。年末の保護者会では、子どもや家族のために、行く先をどう選択すればいいのかと悩む保護者の方々の声がかかれました。これからも、そうした子どもたちや保護者の方々の、喜

怒哀楽や「困った」を表せる場づくりを目指していきます。

新年を明けて、また子どもたちとの日々が始まりました。皆様のご支援のおかげで、2014年も子どもたちの居場所づくりを続けていくことができます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

活動の小さな両輪

この機会を通して、これまでお世話になっていた方々に加え、ビーンズを知らなかった方々へも、現在の子どもの様子を伝えることができました。目の前にいる子どもたちを支える活動は、ビーンズだけでは成立し得ず、多くの方々の理解と協力を得て、初めて進めることができます。現場で彼らに寄り添うことと同時に、彼らの声を仲介者として社会へ広く伝えていくこと。小さく地道な活動ですが、この2つが、私たちの活動の両輪だと、改めて感じています。小さな両輪は、社会を変える一歩一歩を刻むものと、展望を抱いています。

寄付キャンペーンの企画は、オンライン寄付サイトGive Oneさんがご支援くださいました。こうして支えてく



ださる団体様、そして個人様のお力を借りながら、子どもを取り巻く社会環境の改善に向けて、本年もまい進していきます。

■寄付キャンペーン集計(2013.11.27~12.27)

		金額	人数
寄付	合計	91,960	22
	キャンペーンサイト	76,000	14
	通常サイト	15,960	8
オンライン	合計	494,000	48
	郵便振込	219,000	29
	現金	89,000	11
	銀行振込	186,000	8
企業ハイクーパー	合計	698,000	139
総額	1,283,960	209	

ビーンズふくしまでは、常時寄付を受付しております。ぜひ継続的な支援にご協力をお願いします。

【銀行振込、郵便振込】：下記口座にお振込みください

■銀行振込先 東邦銀行 本店営業部 普通口座

口座番号:3692401

口座名義:特定非営利活動法人ビーンズふくしま 理事 若月ちよ

■郵便振込先 振込取扱票をご利用の上、振込いただけます。

通信欄に、「ビーンズふくしま寄付金」とご記入ください。

口座記号番号:02240-3-38521

加入者名:NPO法人ビーンズふくしま

【オンライン寄付】：「Give One」にてお振込みください

<http://www.giveone.net/cp/PG/CtrlPage.aspx?ctr=pm&pmk=10252>

◆「1日1クリック」でビーンズを応援!

gooddo(グッドゥ)にあるビーンズのページで、毎日1回「応援する」をクリックすると、ビーンズふくしまの応援ポイントになり、ビーンズの収入になります。ぜひ皆様のご協力をお願いします! <http://gooddo.jp/gd/group/beansfukushima>



心のつながり

(株)ビッグヴィジョン グレース 代表取締役 嘉山 恵

私は37歳ですが義理の子供3人と孫が3人いるおばあちゃんです。血のつながりももちろん大切ですが心のつながりが最も大切だと思っています。

今回はNPOビーンズふくしまの活動を知り、大人たちが沢山の子どもたちを必死に応援している活動に心を打たれました。日本は超少子化超高齢化になっています今後ますます加速すると厚生労働省の統計も出ています。未来の日本を担う子どもたちを大人たちがもっと応援していく時代ではないでしょうか?代表の若月さんスタッフの皆様情熱ある活動に敬意、私にもできることをさせていただきます。今後も応援しております。

仮設の子どもたちへの学びおよび「お泊りキャンプ企画」のサポートへの寄付に参加して

小野はるな

4年前にビーンズで働かせていただいていたいました。遠くにいて会えなくても、いただいたご縁の有難さは褪せることなく、自身の「土」になっていこうと居ながら葛藤と、何かそれを言葉に発すること自体もしてはならないような忸怩たる思いがあります。でも、同じ場所に住んでいてさえ、本当に同じ体験を共有するというのが、より一層困難で、そのことはより一層苦しいということがあるかもしれないと思いついた時、再び思い出すのは、働かせていただいていた時の、ビーンズという場—フリースクールや、青年自立支援、相談室—を通して、「その人がその人らしく居られることを願う」ゆるやかな場の空気です。仮設の子どもたちへの学びと遊びのサポートの底に流れるその空気一粒に加わらせていただきたいと思います。

縁をつなぐ

本多 敏明(千葉市在住)

私は福島県須賀川市出身で現在は千葉市に住んでいます。今回の寄付は大学院時代に世話になった先輩がビーンズふくしまで活動されていることをFacebookで知ったことがきっかけでした。千葉在住の自分では「福島のために」身近な活動ができません。「顔の見える」先輩を縁として、福島のため、子どもたちのために少しでも何か役立てればという思いで協力させていただきます。ビーンズふくしまのこれからの活動報告も期待しています。

皆さんの想いを集めて

昨年10月に、少子化防止から高齢者の自立というビジョンのもと会社を運営されているらっしゃる嘉山さんから「今回12月7日にパーティーを企画しております。せっかくパーティーを行うのだったら主催が女性2人なので、未来を担う子供たちに何かできないかと支援先を探しておりました。」とのメールをいただきました。

ビーンズの活動を知り、被災子ども支援に集まった義捐金を送ってくださることになり、なんと139名の皆様、11企業の皆様からのお気持ちを繋いでいただきました。

●多くの皆様から、心のこもったご寄付と、温かいメッセージをいただきました。ありがとうございました。本来であれば皆様のお名前をご紹介しますところですが、紙面の都合上、今回は省かせていただきますこと、ご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします。

ビーンズの人材育成や、助成金事業など組織の基盤整備において大変お世話になっている日本NPOセンターの吉田健治さんに「寄付をする」とはどういうことかうかがいました。

コラム お金には色がある

日本NPOセンター 企画部門長 吉田 健治

「ビーンズふくしまが200人から100万円を集めた」。私にとっても、勇気をもたらすニュースでした。東日本大震災から3年がたち、人々の記憶は徐々に薄れ、現場の状況は想像しにくくなってきています。これはある意味で仕方のないことではありますが、それでも多くの人が福島の子どものことを見ている。機会があれば応援の気持ちを行動に表したいと考えている。それを立証いただきました。

今回、これまでにビーンズふくしまと直接つながりがなかった方からも、多額の寄付があったとのこと。これは2つのことを表していると思います。1つはその寄

付をされた方に、ビーンズふくしまのことを紹介された方がおられたということ。理事や事務局以外に「ビーンズふくしまを応援してよ」と言ってくれる支援者がいるということは、心強いことです。もう1つはこれまでの活動が認められたということ。一目見て「ここなら大丈夫」と思わせるだけの実績を地道に積み上げてきたからこそ、思いもよらぬ寄付を受けることができるのです。

NPOの財源にはいろいろなタイプがあります。事業の対価として得られる事業収入においては、お金の出し手と受け手は間に「商品」を置いた取引関係にあ

ります。一方、寄付の場合、お金の出し手は団体の取り組みを応援する人であり、応援を通して、子どもたちを取り巻く環境の改善に寄与したいと感じた人々たちです。すなわち、お金の出し手も受け手も活動の共同実施者であり、寄付者は消費者ではなく仲間なのです。

「お金には色がない」と言いますが、寄付金には寄付者の思いが乗っています。寄付を応援メッセージとして、活動を通して子どもたちに伝え、子どもたちの様子を寄付者に伝える、コミュニケーションの仲介者としての活動に期待しています。